

組織目標評価報告書（令和3年度）

部局名：

大学院医歯薬学総合研究科 歯学系

部局長名：

長塚 仁

目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p> <p>1)大学院生のニーズの多様化に対応するため、一般コースと臨床専門医コースをさらに充実させる。また、融合型教育を推進することで、教育体制の整備を進める。 2)基礎系および臨床系分野が協力し、融合型の教育と研究を推進することで、教育効果の向上を図る。 3)留学生への対応やグローバル化の推進のため、e-learningによる英語授業の拡充を進める。 4)研究志向を有する優秀な大学院生を獲得するため、学部学生や初期研修医に対するキャリアアップの提示を含めた支援と教育をさらに充実させる。 5)大学院生の国内外での研究成果報告を支援することで、優れた研究成果の向上を目指す。 6)国際交流事業を引き続き推進し、協定校等から優秀な留学生の獲得を目指す。 7)コロナ対応を含めた学生支援を充実させ、優秀な学生の確保を推進する。 8)新たな学位プログラム構築に向けた準備を具体化しさらに進める。歯学系として2つのサブプログラムを準備する。</p>	<p>教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>1)大学院改組計画において大学院進学志願者及び社会のニーズに合ったプログラムの設定を計画した。そのため、基礎学部である歯学部在学学生、歯学部卒業生、および博士課程修了者の受入れ実績のある機関にアンケート調査を行った。 2)基礎系および臨床系分野が協力し融合型の教育と研究を遂行し、臨床系分野所属の大学院生の約1/5が基礎系分野に派遣されて研究を行った。 3)オンデマンドによるe-learningの授業数を拡充(119→153科目)した。また、資料への英文字幕貼り付けについて検討し、一部実施を開始した。 4)学部生、初期研修医を対象とした連携型キャリアパス説明会を企画・実施した。キャリア教育の成果により2022年4月入学者は39名(歯学系定員32名、122%)を達成した。 5)ウェビナーを利用したリアルタイム双方向の国際Webセミナーを開催し、学生の国際マインドの維持や国際化の推進を継続した。本年度はハーバード大学、オハイオ大学、ハサヌディン大学、メリーランド大学、ウイスコンシンマディソン大学とのオンライン交流を実施した。 6)学部間国際交流協定新規1件、更新1件を締結した。特に、本年度更新したプリティッシュコロンビア大学歯学部はODAPUSをはじめとした交流拠点校である。外国人大学院生を2020年4月入学で7名、10月入学で1名2022年4月入学で7名獲得した。歯学系の正規留学生は29名、大学院への進学を前提とした研究生は4名である。「国費留学生の優先配置を行う特別プログラム」に採択され、「中国赴日本国留学生予備教育事業」にも協力し、優秀な国費留学生の獲得に寄与している。 7)コロナウイルス感染症対策のために渡日できない大学院生に対してはオンラインで個別指導を行い、またオンラインセミナーを実施する等の対策を講じた。 8)社会のニーズと現状を反映させ、大学院博士課程改組計画では、歯学・歯科医療分野における高度専門医療人、大学教員、研究者などを養成する歯学学位プログラムを設定し、選択プログラムとしてポータル歯学研究者養成プログラムの設定を計画した。</p>
<p>②研究領域</p> <p>研究大学「岡山大学」の構築を先導的に牽引するための施策を策定する。 1)歯学系内での基礎研究および臨床研究の融合推進を図り、全学的な研究交流を推進させ、新たな研究シーズの発見と応用に向けた取り組みを加速させる。 2)協定校や海外研究機関との交流を活性化し、国際共同研究を推進する。コロナ等の感染症拡大にも対応可能な共同研究体制を構築する。 3)歯学系研究と国内・国際的な共同研究を推進するため、歯学部先端領域研究センターの活動を活性化し、優れた研究成果に繋げる。 4)歯学部棟の改修を進めることで、新たな融合研究の拠点とする。 5)高い科学研究費の申請率および採択率を維持し、複数課題への申請や大型課題の獲得などさらなる向上を目指す。 6)共同研究推進の原動力となる、受託研究、寄付金の受入増加に努める。 7)「臨床中核病院」、「橋渡し研究戦略的推進プログラム」等のプロジェクトに、歯学系の特徴を生かして協力、参画し、積極的に基礎研究および臨床研究を推進する。</p>	<p>研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>Shanghai Ranking's Global Ranking (Dentistry & Oral Sciences, 2021)で、国内4位である。 1)歯学系内での基礎研究・臨床研究の融合により、橋渡し研究を加速するために、歯学系が主体として運営する「岡山歯学会」のWeb開催システムを整備し、「ライブ・オンデマンド配信による初の岡山歯学会」を挙行した。全学的な研究交流を推進するため、オンラインブレインストーミングを敢行し、対面開催を超える参加者を得て異分野交流をより一層活性化させた。 2)科学技術振興機構 創発的研究支援事業に歯学系教員の採択を得た。本研究科発の学際的国際共同研究が推進されることが確実になった。 3)歯学部先端領域研究センター 研究交流セミナーを、オンラインで年間を通じて連続開催した。 4)歯学部棟を、地域-臨床、臨床-基礎、基礎-未開拓領域間をシームレスに交流できるようなゾーニングを基礎とした歯学部棟の改修を進め、本年度第1期工事が完了した。第2期工事についても認められ、共有スペースの拡充を図り、新たな融合研究の拠点となる設備を計画した。 5)歯学系構成員による科学研究費への応募を推進した結果、助教以上の継続教員数に対する継続課題保持教員数及び新規応募教員数の割合で100%を達成した。歯学領域での科学研究費新規獲得件数は全国4位であった。基盤研究(B)では応募課題の57%が採択された。JST「2021年度創発的研究支援事業」に歯学系研究准教授が採択された。 6)共同研究を多面的に推進した結果、本年度は3件の共同研究、5200千円、9件の受託研究120,225千円、212件の寄付金、50,741千円であり、昨年度と比較して大幅な増加を得た。さらに歯学部棟改修に必要な費用を補うためのファンドレイジングシステムを稼働させた結果、15,000千円の寄付が集まった。 7)AMED事業「大腸菌発現系由来rhBMP-2含有β-TCP製人工骨を用いた顎骨再生療法」および文科省事業「保健医療分野におけるAI研究開発加速に向けた人材養成産学協働プロジェクト」に加えて、岡山大学病院オープンイノベーションラボを拠点とした「スーパージンテックへの参画を通じた地域課題の解決と新たな産学連携オープンイノベーション体制の構築」が開始し、歯学系のより広い貢献が可能となった。令和3年度は、臨床研究中核病院として歯科系の医師主導治験を2件、特定臨床研究を5件、「臨床研究法」に基づいて実施された「その他の臨床研究」を3件実施しており、このうち医師主導治験の2件、特定臨床研究の1件、その他の臨床研究の3件は、令和3年度に新規に開始したものであり、歯科系の特徴を生かして積極的に臨床研究に取り組んだ。</p>
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p> <p>1)地域、社会のニーズに応じたりカレント教育を策定し、収益事業として推進する。オンラインを積極的に活用することで、参加者の増加と新たなニーズの開発に努める。 2)国際交流プログラムへの参画、協力を推進する。コロナ等の感染症拡大による国際交流の機会の減少に対応するため、オンラインを用いた新たな交流の形やポストコロナを見据えた国際交流の在り方の検討を進め、留学生の獲得や大学院生の海外派遣の方策の検討を進める。 3)多職種医療連携をさらに促進する。医療支援歯科治療部やスペシャルニーズ歯科センターを主体として、医療連携推進のための人材育成、教育、研究の充実を図る。 4)地域の医療機関と連携し、大学病院のネットワーク化を推進し機能の充実を図る。 5)社会連携の推進や診療の効率化にむけた歯学部棟の改修を進める。研究力と国際性を向上させるべく2期工事に向けた計画を策定する。 6)「外国人臨床修練制度」を利用して教育・研修を行い、国際的な人材を育成する。</p>	<p>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>1)地域の歯科医師を主な受講対象者として行ってきたリカレント教育をオンライン事業として定着させ40名の有料参加者を得た。オンライン化により、遠方の参加者を新たなニーズとして開拓することができた。 2)国際交流事業は困難を極めたが、国際交流協定新規2件、更新1件を締結した。更新したプリティッシュコロンビア大学歯学部は、ODAPUS等の重要な拠点校である。本年度は実際の人的交流の代替手段としてリアルタイム双方向のWebセミナーを開催し、学生の国際マインドの維持や国際化の推進を継続した。本年度はハーバード大学、オハイオ大学、インドネシアハサヌディン大学、メリーランド大学、ウイスコンシンマディソン大学とのオンライン交流を行い、参加学生から非常に高い評価を得た。今回の双方向のWebセミナー開催にあたり構築した設備等は、今後も国際交流の促進に非常に有用なツールとして利用可能であり、人的な交流が再開された際には留学生の派遣・受入の前後にも本年度導入したシステムを用いることにより、リアルタイムで双方向コミュニケーションが行うことが期待できる。 4)口腔外科(口腔顎顔面外科部門)は、「中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム、第13回歯科口腔外科インテンシブコースを開催し、がん診療ならびに多職種連携に関する地域医療機関ネットワークの推進に貢献した。</p>
<p>④管理運営領域</p> <p>歯学部へ統合</p>	<p>管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p>